Roland



JUN0-106 PLUG-OUT Software Synthesizer

取扱説明書

はじめに

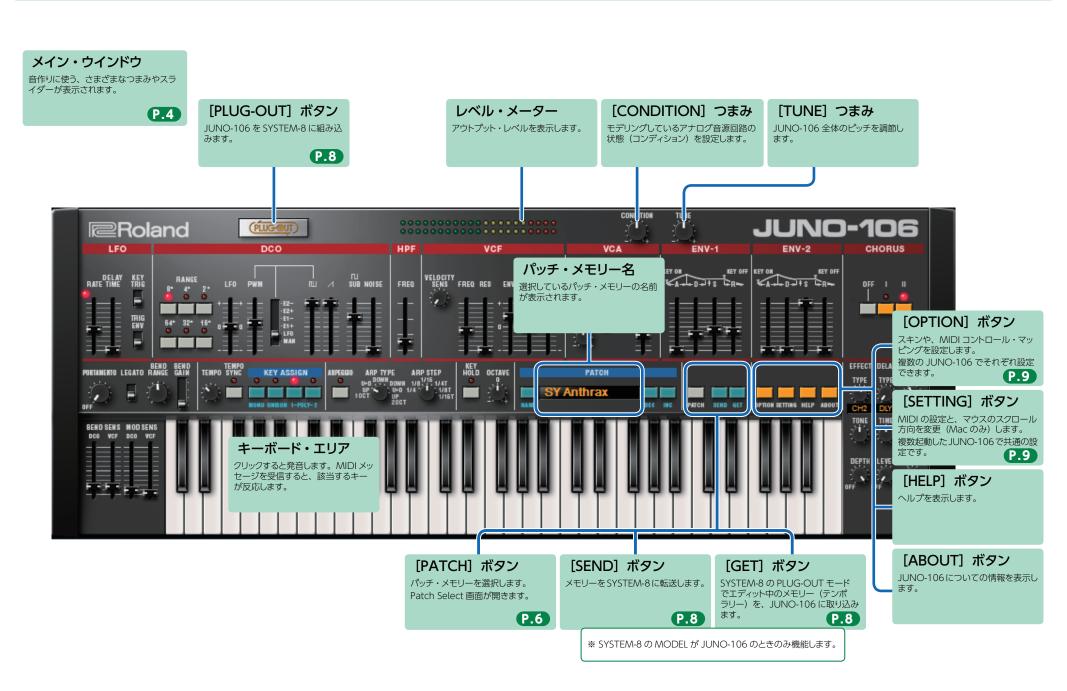
初めてご使用になるときは、セッティング(P.9)の MIDI Input/Output を設定してください。

お使いの DAW の設定については、DAW のヘルプや取扱説明書をお読みください。

商標について

- ・VST は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- Roland、PLUG-OUT、AIRA は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。





メイン・ウインドウ

LFO

音に周期的な変化 (うねり) をつけます。

RATE	うねりの速さを決めます。
DELAY TIME	キーを押してからLFOの振幅が最大になるまでの 時間を設定します。
KEY TRIG スイッチ	キーを押したタイミングとLFO の周期が始まるタイミングを合わせるか (ON)、合わせないか (OFF) 設定します。
TRIG ENV スイッチ	LFO の周期でエンベロープが繰り返し立ち上がり ます (ON)。

DCO

音のキャラクターを決める波形を選び、音の高さを決めます。

RANGE	オシレーターのオクターブを選びます。
LFO	LFO で音のピッチを変化させます(ビブラート)。
DULCE	スイッチが「MAN」(MANUAL)のとき:
PULSE	パルス・ウィズの値を調節します。
WIDTH スライダー /スイッチ	スイッチが「LFO」「E1+」「E1-」「E2+」「E2-」
	のとき:
	モジュレーションの深さを調節します。
[123]	矩形波/非対称矩形波の音量を調節します。
[/]	のこぎり波の音量を調節します。
SUB	サブ・オシレーターの音量を調節します。
NOISE	ノイズの音量を調節します。

HPF

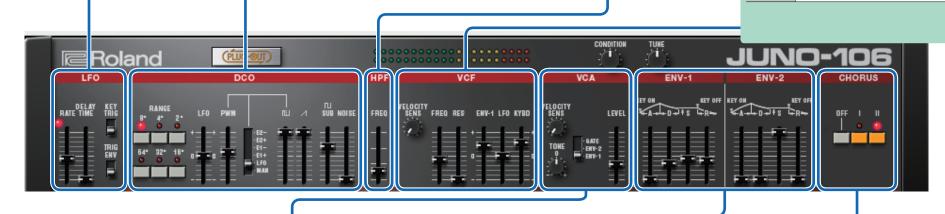
高い周波数を通過させて低い周波数をカットする、ハイ・パス・フィルターです。

ハイ・パス・フィルターのカットオフ周波数を決め ます。カットオフ周波数より低い周波数成分をカットします。

VCF

低い周波数を通過させて高い周波数をカットする、ロー・パス・フィルターです。

VELOCITY	キーを押す強さでロー・パス・フィルターを変化さ
SENS	せるときの感度を調節します。
FREQ	ロー・パス・フィルターのカットオフ周波数を決めます。 カットオフ周波数より高い周波数成分をカットして音を丸くします。
RES	レゾナンスは、フィルターのカットオフ周波数付近を強調します。 値を大きくするほど強調の度合いが大きくなり、シンセサイザー特有のクセのある音になります。
ENV-1	カットオフ周波数を ENV-1 でコントロールすると きのかかり具合を調節します。
LFO	LFO でカットオフ周波数を変化させます。
KYBD	カットオフ周波数を鍵盤でコントロールする際の、 音の高さに対する効き具合(キー・フォロー)を 調節します。スライダーを下に動かすと、高音に なるのにしたがってカットオフが下がります。



VCA

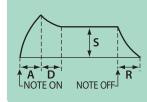
音量の時間的な変化 (エンベロープ) のかかり具合を調節します。

VELOCITY SENS	キーを押す強さで音量を変化させるときの感度を 調節します。
SEINS	調則しま9。
TONE	音質を調節します。
GATE/ ENV-1/ ENV-2 ス イッチ	ENV(エンベロープ)でコントロールするか、ゲート信号でコントロールするかを選びます。
LEVEL	音量を調節します。

ENV-1/2

時間的な変化(エンベロープ)を作ります。

Α	アタック・タイム
D	ディケイ・タイム
S	サステイン・レベル
R	リリース・タイム



CHORUS

コーラスのタイプを切り替えます。

OFF	コーラスはかかりません。
I	コーラス 1
II	コーラス 2

TEMPO / KEY ASSIGN

ТЕМРО	ステップ・シーケンサー/アルペジオのテンポを 設定します。設定したテンポのタイミングでイン ジケーターが点滅します。
TEMPO SYNC	LFO セクションのうねりの速さ(RATE)や EFFECTS セクションのディレイ・タイム(TIME) を、テンポに同期させます。
MONO	単音で発音します。
UNISON	複数音重ねて単音として発音します(ユニゾン)。
POLY-1	 ・ポリフォニックで演奏します(ポリ)。
POLY-2	Mリフォニックで演奏しより(Mリ)。

ARPEGGIO

ARPEGGIO	アルペジオをオン/オフします。
ARP TYPE	アルペジオのタイプを選びます。
	アルペジオの 1 ステップあたりの音符の長さを選びます。

OTHER

KEY HOLD	キー・ホールド機能のオン/オフを切り替えます。
OCTAVE	鍵盤の音域を 1 オクターブ単位で動かすことができます。
NAME	パッチの名前を設定します。
DISPLAY	パッチ名を表示します。
DEC/INC	前の(次の)パッチを選びます。

EFFECT / DELAY / REVERB

EFFECT TYPE	エフェクト・タイプを選びます。
TONE	エフェクトの音色を調節します。
DEPTH	エフェクトのかかり具合を調節します。
DELAY TYPE	ディレイ・タイプを切り替えます。
TIME	音を遅らせる時間を調節します。
LEVEL	ディレイの音量を調節します。
REVERB TYPE	リバーブ・タイプを切り替えます。
TIME	リバーブ・タイムを調節します。
LEVEL	リバーブの音量を調節します。



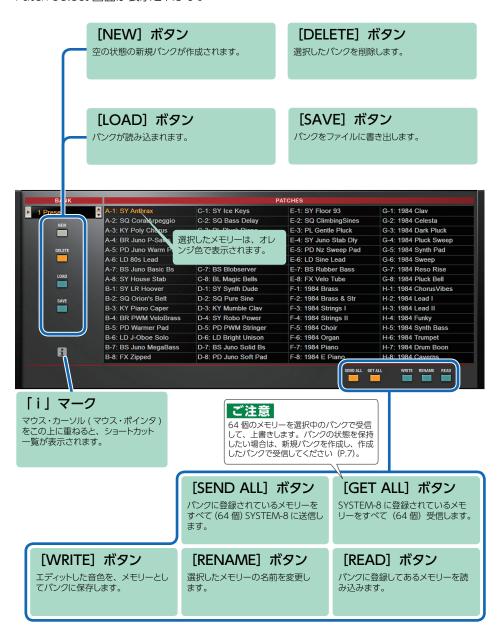
PORTAMENTO / PITCH BEND / MODULATION

PORTA- MENTO	ポルタメントをかけるときのピッチ変化にかかる 時間を調節します。
LEGATO	レガート奏法(あるキーを押しながら他のキーを 押す)のときにだけポルタメントがかかります。
BEND RANGE	ピッチ・ベンド・レンジを設定します。
BEND GAIN	BEND RANGE の倍率を設定し、変化幅を拡張 します。
BEND SENS DCO	ピッチ・ベンド操作をしたときのピッチの変化する量を設定します。
BEND SENS VCF	ピッチ・ベンド操作をしたときのフィルターの変 化する量を設定します。
MOD SENS DCO	モジュレーション操作をしたときのピッチの変化 する量を設定します。
MOD SENS VCF	モジュレーション操作をしたときのフィルターの 変化する量を設定します。

メモリーとバンク

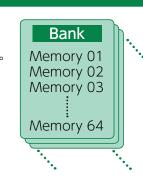
1. [PATCH] ボタンをクリックします。

Patch Select 画面が表示されます。



バンク

64 個のメモリーをまとめたものを「バンク」と呼び、バンクを切り替えることで、数多くのメモリーを呼び出すことができます。 バンクはファイルとして保存することができます。



バンクを切り替える

- **1. バンク欄をクリックします**。 バンク・リストが表示されます。
- 2. 呼び出したいバンクをクリックします。 バンク欄右側にある [▲] [▼] ボタンを押すと、1 つ前、1 つ後ろのバンクに切り替えることができます。

バンクを書き出す

バンクをファイルに書き出します。

- **1. [SAVE] ボタンをクリックします。** ファイル名入力画面が表示されます。
- **2. ファイル名を入力し、保存します**。 ファイルが書き出されます。

バンクを読み込む

- **1.** [LOAD] ボタンをクリックします。 ファイル選択画面が表示されます。
- **2. ファイルを選択し、読み込みます。** バンクが読み込まれます。

バンクを作成/削除する

バンクの作成

[NEW] ボタンをクリックすると、空の状態の新規バンクが作成されます。

バンクの削除

選択したバンクを削除します。

- 1. 「バンクを切り替える」(P.6) の手順で、バンクを選択します。
- 2. [DELETE] ボタンをクリックします。 確認画面が表示されます。
- 3. [OK] をクリックして、削除します。

バンク名を変更する

- 1.「バンクを切り替える」(P.6) の手順で、バンクを選択します。
- 2. バンク欄左側にある ▶ をクリックします。
- 3. 名前を変更し、「Return (Enter)」キーを押します。

メモリー

JUNO-106 では、64 個のメモリーを 1 バンクとして管理します。

メモリーを読み込む

バンクに登録してあるメモリーを読み込みます。メモリーを読み込むと、エディット・エリア に設定が表示され、エディットできるようになります。

- 1. 読み込むメモリーの番号をクリックします。
- **2.** [READ] ボタンをクリックします。または [Return (Enter)] キーを押します。 メモリーが読み込まれます。

※メモリー番号をダブルクリックして、メモリーを読み込むこともできます。

メモリーを保存する

エディットした音色を、メモリーとしてバンクに保存します。

- 1. 保存するメモリーの番号をクリックします。
- **2.** [WRITE] ボタンをクリックします。 メモリーがバンクに保存されます。

メモリー名を変更する

- 1. 名前を変更するメモリーの番号をクリックします。
- 2. [RENAME] ボタンをクリックします。
- 3. 名前を変更します。(最大 16 文字)

メモリーの順番を変更する

メモリー番号をドラッグして、メモリーの順番を変更します。

SYSTEM-8 で演奏する

SYSTEM-8 をパソコン (Mac \angle Windows) に接続すると、JUNO-106 と SYSTEM-8 を組み合わせて使うことができます。

MIDI ポートとして表示される [SYSTEM-8 CTRL] は、JUNO-106 が使用するポートです。 DAW からは使用しないでください。

プラグアウト

プラグアウトとは?

JUNO-106 をはじめとするソフトウェア・シンセサイザーを、SYSTEM-8 に組み込んで使用することができる技術です。

- パソコンを使わずにSYSTEM-8単体で、JUNO-106を演奏することができます。
- 選択中のバンクの情報をSYSTEM-8に転送することができます。
- SYSTEM-8のつまみやスライダーを使って、音色をエディットすることができます。



プラグアウトの手順

- 1. [PLUG-OUT] ボタンをクリックします。
- 2. SYSTEM-8 の MODEL ボタンに対応する、PLUGOUT 先 (PLUG-OUT1 ~ PLUG-OUT3) を選択します。

確認メッセージが表示されます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

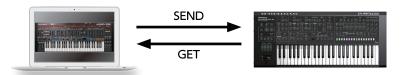
プログレス・バーが表示され、プラグアウト処理が始まります。 およそ 1 分かかります。

- ※ すでに JUNO-106 をいずれかの PLUG-OUT 先(PLUG-OUT1 \sim PLUG-OUT3)に プラグアウトしてる場合は、新たにプラグアウトすることはできません。
- ※ すでにほかのソフトウェア・シンセサイザーが SYSTEM-8 にプラグアウトされている場合は、確認メッセージが表示されます。続けるには、[OK] をクリックします。

エラー・メッセージが表示される場合は、次の項目を確認してください。

- ・MIDIポートは正しく設定されていますか? (P.9)
- •SYSTEM-8 とパソコンが接続されていますか?

メモリーのセンド/ゲット



- 1. SYSTEM-8 をパソコンと接続します。
- プラグアウト先の SYSTEM-8 の MODEL [PLUGOUT1 ~ 3] ボタンをオンにします。
 - ※メモリーをセンド/ゲットするには、あらかじめプラグアウト (P.8) しておく必要があります。

メモリー・センド

JUNO-106の現在のメモリーを、SYSTEM-8に送信して、SYSTEM-8で鳴らすことができます。 音は SYSTEM-8 の OUTPUT 端子から出力されます。

3. JUNO-106 の [SEND] ボタンをクリックします。

メモリーが送信されます。

メモリー・ゲット

プラグアウトした JUNO-106 のメモリーを SYSTEM-8 でエディットしたとき、そのメモリーを JUNO-106 に取り込むことができます。

3. JUNO-106 の [GET] ボタンをクリックします。 メモリーが取り込まれます。

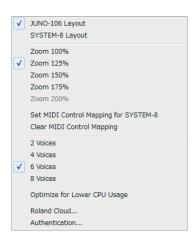
エラー・メッセージが表示される場合は、次の項目を確認してください。

- MIDI ポートは正しく設定されていますか? (P.9)
- ・SYSTEM-8 とパソコンが接続されていますか?
- JUNO-106 が SYSTEM-8 にプラグアウトされていますか? (P.8)

設定

オプション

1. [OPTION] ボタンをクリックします。



2. 項目を選択します。

選択されている項目には、✓が表示されます。

項目	説明
JUNO-106 Layout SYSTEM-8 Layout	メイン・ウインドウの操作子の配置を変更します。 JUNO-106 Layout:JUNO-106 (オリジナル) 相当の配置にします。 SYSTEM-8 Layout:SYSTEM-8 と同じ配置にします。
Zoom	メイン・ウィンドウのサイズを変更します。
Set MIDI Control Mapping for SYSTEM-8	MIDI コントロール・チェンジの対応を、SYSTEM-8 をコントロール・サーフェスとして使用する設定にします。
Clear MIDI Control Mapping	MIDI コントロール・チェンジの対応をすべてクリアします。
2 ~ 8Voices	最大同時発音数を設定します。 発音数を減らすと、CPU への負荷を下げことができます。
Optimize for Lower CPU Usage	CPU 使用率が高くなり音切れが発生するときは、ON にしてください。
Roland Cloud	Roland Cloud サイトを表示します。
Authentication	JUNO-106 のユーザ認証を行います。

セッティング

1. [SETTING] ボタンをクリックします。 Setting 画面が開きます。

※Flip Scroll Direction は Mac のみ。



2. パラメーターを変更します。

パラメーター	説明
MIDI CTRL Input	「SYSTEM-8 CTRL」を選びます。
MIDI CTRL Output	
Flip Scroll Direction (Mac のみ)	マウスのスクロール・ホイールで値を変更するときの、回転方向を反転します。

※複数の JUNO-106 を起動したとき、すべてに適用されます。

その他

DAW 上の JUNO-106 (プラグイン) を SYSTEM-8 で鳴らす場合は、SYSTEM-8 のメニューから「SYSTEM」→「SOUND」→「Local Sw」の設定を「SURFACE」にしてください。

SYSTEM-8 内蔵の音源は鳴らなくなり、JUNO-106 だけが鳴らせるようになります。 詳しくは、SYSTEM-8 リファレンス・マニュアルをご覧ください。